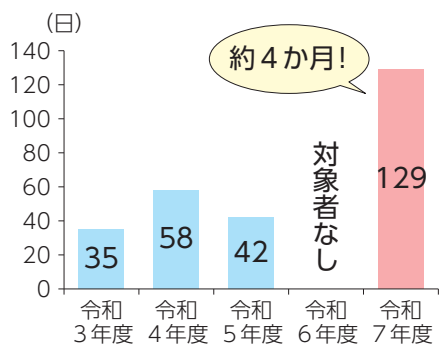




男性の育休は「当たり前」！みんなで助け合う市内企業に学ぶ

問 総務課 ジェンダー平等・多文化共生推進室 ☎73-9107

令和8年度男女共同参画週間のキャッチフレーズは「あなたらしさが、社会のチカラ」。それぞれの形に合わせて協力しながら子育てを楽しむには、男性の育児参画が大切です。今回は、男性の育児休業取得を推進し、令和4年度に福岡県から表彰を受けた「有限会社共栄資源センター小郡」の取り組みを紹介します。



▲育休最長取得日数の推移

令和6年度は育児休業対象者不在のため、取得実績なし

制度が形だけにならず、しっかりと活用されているのが同社の特徴です。対象となった男性社員は全員が育休を取得しており、令和7年度には、最長129日の取得実績がありました。誰もが気兼ねなく休める環境が根付いていることが伺えます。

データが示す確かな実績

「休むと周りに迷惑がかかるかも」という不安をなくすため、同社では社員が複数の部署の仕事を経験し、誰が休んでも他の人がカバーできる仕組みを作っています。また、社内の細かい業務も「委員会」を作って全員で分担し、一人ひとりの負担を減らして、休みやすい環境を整えています。

助け合える「お互い様」の仕組み

家族のカタチに合わせた「働き方の工夫」

育休を取るだけでなく、働き方を柔軟に変えられるのも特徴です。同社のごみ収集業務は、6時45分から朝早いです。2人目の子どもが生まれた社員は「上の子の保育園の送迎ができるように、8時30分出勤の部署へ一時的に異動する」という選択をしました。また、子どもが保育園に入って体調を崩しやすくなる「パートナーの職場復帰のタイミング」に合わせて、夫が育休を取ることも推奨されています。夫婦で協力して、新しい生活リズムを一緒に作っていくための心強い仕組みです。

家族で一緒に過ごせる喜び

実際に1か月以上の育休を取った男性職員のパートナーからは、「日中、夫婦揃って子育てができる時間は人生でも貴重。家族で時間を分かち合えて本当に良かった」と喜びの声が寄せられました。特に産後の大変な時期や、生活リズムが変わるタイミングを夫婦で一緒に乗り越えることは、その後の家族の絆を深める大きな第一歩となります。

有限会社共栄資源センター小郡 (小郡市上岩田)

男性の積極的な育児参画は、パートナーの心身の負担を減らすだけでなく、親としての喜びや悩みを分かち合う大切な時間です。誰もが安心して子育てと仕事を両立できる社会をめざして、皆さんの家庭や職場でも、育児の分担や柔軟な働き方について、話し合ってみませんか。

小郡市内のごみ収集を行い、私たちの暮らしを支えている会社です。片付けなどの生活サポートも行っています。

